

2022 年度地域協働フィールドワーク

活動報告書



2023年 2月

目次

p. 3 はじめに

p. 4 メンバー紹介

p. 5 主な活動スケジュール

| 各メンバー活動報告

p. 7 丸太ベンチの制作と補修

p. 11 天売島観光Webサイト制作

p. 14 忘れ去られた歴史を後世に伝える

p. 16 島民との交流と「てん」を活用した交流スペース

p. 19 おわりに

はじめに

北海学園大学経済学部を学生を対象とした特別講義「地域インターンシップ」がこの活動の母体です。地域インターンシップは2016年度に私たちの先輩たちが天売島を訪れた際に始まりました。島民の方々と触れ合っていく中で離島独特の地域性や天売島が抱える問題を知り、自分たちが天売島に何をすることができるかを考えました。この時考え出されたものが、天売島での暮らしや仕事にまつわる歴史を次世代に伝えていくための書籍を作ること、当時天売島に放置されていた空き店舗を再活用することでした。

2020年、2021年にはコロナウイルス蔓延の影響を受け、天売島に訪問して私達の考えた企画を行うということが叶いませんでしたが、札幌にいる状態でも少しでも天売島を知ってもらうような活動（レンタルスペースてんのWebサイト制作や食料支援への食料提供など）をメインで行ってまいりました。

2022年の活動ではようやく事前訪問・本訪問の2回に分けて天売島の訪問が叶った為、「レンタルスペースてん」の活用を行うとともに、コロナ禍における行動制限のある中でも更なる活動の発展を目指し、4年生のメンバーを中心に新たなプロジェクトを行うことに決定しました。本訪問終了後には、今年度の活動内容をまとめた学内発表会を初めて実施し、数十名の学生・教員の方々に向けて地域協働フィールドワークとは、と言う問いから、活動に参加している私たち学生がどのような考えを持ってこの活動に取り組んで来たのかという考えを改めて言語化して伝えさせていただきました。

この報告書では今年度のメンバーが揃った4月から一年間の活動を報告させていただきます。最後になりますが、プロジェクトをご支援いただいた天売島おらが島活性化会議様、天売島の島民の皆様、地域協働フィールドワークに関わる北海学園大学経済学部、北海道エンブリッジ様に感謝申し上げます。

2022年度 北海学園大学地域協働フィールドワーク
経済学部経済学科 4年
森下龍弥

メンバー紹介

メンバー



△ 交流スペース「てん」の前で撮った写真

※ 「てん」は天売島フェリーターミナルそばにある観光売店の空き店舗を学生が改装して運営しています。

リーダー

岩崎竜平 4年 (写真左から2番目)

メンバー

桑折大哉 4年 (写真左から1番目)

森下龍弥 4年 (写真左から4番目)

原田悠里 2年 (写真左から3番目)

主な活動スケジュール

4月 顔合わせ・キックオフMTG

6月 事前訪問（2022年6月30日～7月1日）

行動記録

6月30日（水）

8:00 大学出発（マイクロバス）

11:30 羽幌町郷土資料館

12:30 北海道海鳥センター，道の駅「ほっと・はぼろ」で昼食

14:00 羽幌フェリーターミナル発

15:35 天売島着

16:00 挨拶回り（天売高校寮の川村さん，天売高校，川口商店，羽幌町天売支所，天売小中学校，奈良さん宅）

17:30 学生夕食

19:00 ウトウ帰巢ツアー

6月31日（木）

9:00 挨拶（オロロンレンタル，羽幌沿岸フェリー）

9:30 ゴメ岬のゴミ拾い（天売高校1年生・1名も参加）

10:30 自転車で島巡り＋各自プロジェクト準備活動

（原田さんが①高校生2人にインタビューを15:00と21:00，②島の年配の方々と地域おこし協力隊（天売高校支援）との「懇談会」を16:30に実施）

21:30 観音岬に行って星空を堪能する

7月1日（金）

9:00 てんの清掃，打ち合わせ

10:00 挨拶（宇佐美さん，ゲストハウス天宇礼の部屋も見せてもらう）

10:30 自由行動

13:20 天売島発（高速船）

14:20 羽幌着→羽幌町市街地で自由行動

16:30 羽幌発（マイクロバス）

20:00 大学着

7-8月 本訪問のための準備

8月 本訪問

旅程（6泊7日）

往路：2022年8月14日（日）

10:30 大学発（マイクロバス）

15:30 羽幌フェリーターミナル発

17:05 天売島フェリーターミナル着

8月15-19日
各人に別れてそれぞれの活動の進行期間

復路：8月20日（土）
15:50 天売島フェリーターミナル発
17:25 羽幌フェリーターミナル着
21:30頃（マイクロバスで）大学着

10月20日 坂本さんへのオンライン報告会

11月17日 学内報告会



学内報告会終了後に撮影

丸太ベンチの製作と補修

4年 岩崎竜平

今年度、私が天売島で行った活動は、まず1つ目に、島内にある間伐材を利用した丸太ベンチの製作、そして2つ目に、島内の手作りベンチの補修である。なぜ、このような活動に至ったかというと、島を訪れる観光客の方々の多くが徒歩や自転車などで島の一周を行うなか、島内には休憩できるスポットがあまりなかったという課題を見つけたからだ。それに加えて、島内にある手作りベンチの多くはしっかりと固定されておらず、特に加工などもされていなかったのので、これらの点を解決したいと思い本活動に至った。

まず、「丸太ベンチの制作」を詳しく紹介する。このベンチ制作に私は、天売島の壮大な自然を視覚、聴覚、嗅覚で感じ、「ホッ」と落ち着くことができる休憩スポットにしたいという思いを込めたため、ベンチの形や質感、そして設置場所にはとてもこだわった。2022年6月30日～7月1日にかけて訪れた事前訪問では、まず自ら島を理解するために、島の一周を行い、また、坂本学さんという島民の方にご協力を頂いてベンチの設置場所の探索や、材料となる間伐材の確認など、実際にベンチを作る前の事前準備を行った。坂本さんは天売島おらが島活性化会議という地域おこし団体のメンバーであり、地域協働フィールドワークの現地コーディネーターである。

以下、事前訪問時の写真。

島一周の写真

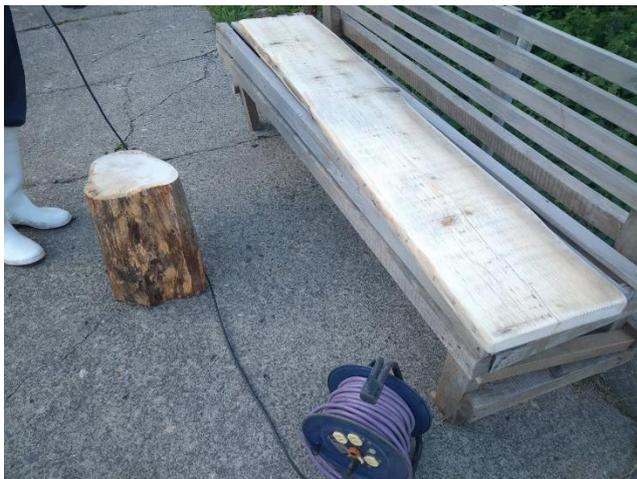


利用許可を頂いた間伐材の写真



2022年8月14日～20日にかけて訪れた本訪問では、事前訪問で得た情報をもとに実際にベンチを作成した。まず、島の方にご協力いただいて、島内の森から間伐材を調達し必要な大きさまで切り、そして、サンダーという鑢を自動で動かせる工具を島の方に借り、座る表面や角が滑らかになるよう半日近くかけて磨いた。その後、木の腐敗を防ぐための塗料を塗り、組み立てて完成させた。私自身、DIY自体初挑戦だったので不安な点がたくさんあったが、島の方のご協力もあり何とか形にすることができた。また、設置場所について、天売島フェリーターミナルから南西に進んだところにある「黒崎海岸」に設置させていただくこととなった。黒崎海岸は、海鳥がたくさんおり、正面にはきれいな水平線が見える。ここは、天売の自然を目いっぱい楽しむことができる場所で、私のベンチ製作に込めた思いと一致すると考え設置場所を決定した。

以下、製作段階の写真と設置後の写真。





次に、島内の手作りベンチの補修について紹介する。今回私はスケジュールの都合上、観光案内所のベンチのみを補修させてもらった。観光案内所にあったベンチは、当初脚と板が固定されていなかったうえ、木も鏝での加工などが施されていなかった。しかし、ベンチ製作と同じ工程でサンダーをかけ表面と角を滑らかにし、防腐塗料を塗り防腐加工を行った。設置後実際に、島民の方々が「ありがとう」、「良くなった」とおっしゃっていたのでとてもやりがいを感じる事ができた。

以下、補修後の写真。

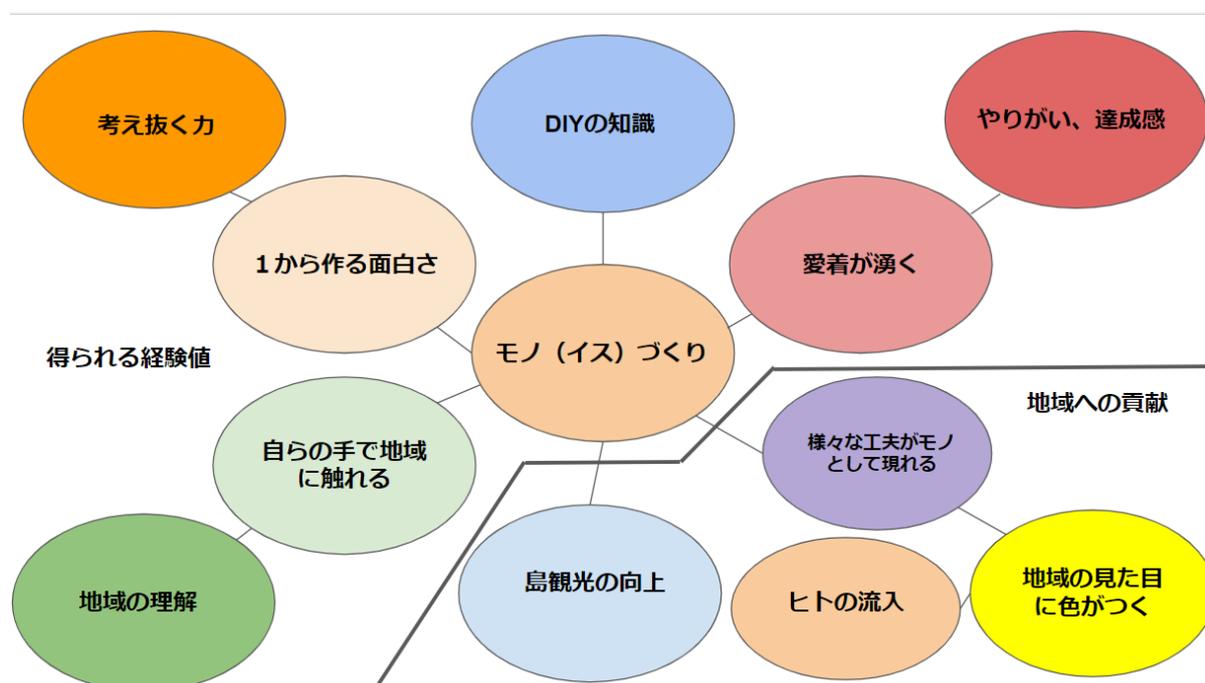


今回の活動を経て、私はどんなことでも地域に住む方々が「嬉しい」「楽しい」という気持ちになれば紛れもなく「地域活性化」に繋がると考えた。今まで大学の講義や教科書の中でよく「地域活性化」という言葉を目にしていたが、私自身その言葉に疑問を抱いていた。「結果的に何を達成すれば地域活性化になるのか」、「経済的観点からのアプローチじゃないと地域活性化に繋がらないのか」など色々考えたが、今回の活動を経て実体験から導いた私の地域活性化に対する考えは、極めて単純なものとなった。まさにこれが地域活性化の原点になると考え、その中で、どのような付加価値を与えるかが地域活性化の“質の違い”に繋がると考える。

今回私は、観光面でのアプローチ、さらに細かく言えばモノづくりでのアプローチになるが、どんなアプローチの方法でもその地域に住む方の感情にポジティブな変化があれば、それは紛れもない「地域活性化」になると考えた。また、今回ベンチを製作するにあたり、実際に完成後の未来像を想像しながら作ったことや、しっかりとベンチに対する意義や思いを持って製作に挑めたことでとても充実した活動になった。なんとなくの感情で取り組んでいたら、ここまで達成することはできなかったと思うので、自分のやりたいことに強い意義や信念を持つことの重要性も学ぶことができた。

次に、今回の活動の反省点は、設置場所の決定が事前訪問の段階で出来ておらず、本訪問中にも再度探索を行ったため、スケジュールが詰め詰めになってしまい最終的に既存のベンチの補修が観光案内所のベンチだけになってしまったという点だ。

最後に、モノづくりの可能性について「どのようなこと学べるのか」、「どのような力がつくのか」、はたまた、「どのような貢献ができるのか」ということを実体験から樹形図のような形でまとめてみたため、是非ご覧いただきたい。



まず、自分が得られる経験値という点では、自分で企画し設計してそれを実際に作るという工程の中で、「1から作る面白さ」を感じることができた。そして、それは「考え抜く力」に繋がった。次に、今回設置場所探しや材料探しでかなり島を歩き回ったため、「自ら地域に触れる」ことができ、「地域の理解」に繋がった。また、ある程度作り始めるとだんだん愛着が湧き、最終的に完成した後のやりがいや達成感に繋がった。最後に、今回自分で設計してインパクトドライバーやサンダーなどの本格的な工具を使ったのでDIYの知識が多少なりともついた。

次に、地域への貢献という点でモノづくりが発展すればどのような可能性があるか考えてみた。まず、モノづくりが発展していくとその人その人の「様々な工夫がモノとして地域に現れる」と思う。そうすれば、「地域の見た目に色が付き」、最終的には「ヒトの流入」に多少なりとも繋がるのではないかと考えた。次に、今回私は観光客を対象に休憩スペースとしてベンチを作ったが、それが発展すると観光の利便性が向上し「島観光の向上」に繋がると考えた。このように、モノづくりにはたくさんの経験と可能性があると考えている。

最後に、今回私はベンチの製作と既存のベンチの補修に携わったが、先ほど紹介したように様々な経験や、学びに繋がった。したがって、現段階でこの活動に興味を持っている方々の中で、「モノづくりをやってみたい」という方や、「直接島の中で何かやってみたい」という方は、是非参考にさせていただきたく思う。

天売島観光Webサイト制作

4年 森下龍弥

このプロジェクトでは「天売島の新しい魅力発見を通してワクワクを感じることができるWebサイト制作」を目標として掲げ、準備を進めた。

ただ、今回のフィールドワークの本訪問には病気のため実際に島に訪問して活動することができなかったが、Webサイトとして形として残す事ができたため、その過程を報告する。

- 背景

目標を掲げた背景としては、活動に参加した3年間の中で島を巡る中、島の人しか知らないようなコアな情報や、実は天売島が行っている取り組みの背景を知ること面白味を感じることができ、それを他の人々にも知ってもらうことで、より天売島という島に対して興味を持ってもらえるのではないかと考えたからである。

- 事前訪問

事前訪問では以下の3つの目標を掲げ、当日はこれらを達成するために活動をしていた。

- 1, 島を一周し、各スポットの確認
- 2, 島民・観光客の方々とお話を通して、情報の取捨選択をおこなう
- 3, Webサイトに載せるための写真素材の確保

事前訪問後に上記の項目から得た情報を活用し、改めてWebサイトの目的やサイトマップなどを考え、実際に構築する準備を行い、本訪問期間に実際にWebサイトを構築しながら、島民や観光客の方々に利用してもらうことを目標にし、準備を進めていくこととなる。

- サイトの目的

- a. 様々な情報をまとめることで、天売島の新しい魅力発信の場を作る
- b. 島を巡る際のもう一つの楽しみ方を提供する
- c. サイトを通して、島民との関わる機会の創出をする

- Webサイトの制作手順

1. 事前訪問で得た情報をもとにサイトマップを作成
2. サイトマップをもとにXDを利用してデザインキャンブを作成
3. デザインキャンブをもとにサイトの内容について再度検討
4. デザインを完成させる
5. デザインをもとにhtml, cssで静的なコーディングを行う
6. コーディングしたものにWordpressの組み込みを行う
7. サーバーにアップして完成（今回は無料サーバーを利用）

上記の手順を行い、完成させたサイトが「てうり手帖」である。

「てうり手帖」

URL

<http://teuriten.wp.xdomain.jp/teurinotebook>

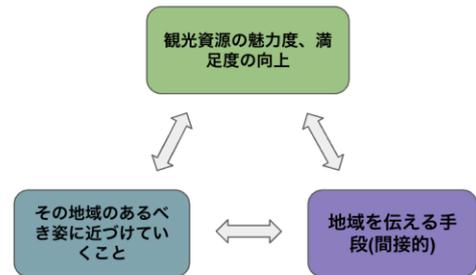
QR



- 活動の反省と今後の展望
本訪問に行くことができないという制限の中で、しっかりと企画として形に残すことができたが、実際に利用してくれる人たちの感想などを本訪問期間中に聞くことができなかったことが悔やまれる。
今後の展望に関しては、より多くの人に天売島を知ってもらえるきっかけを作ってゆく必要があるためWebサイトに限らず、様々な媒体で天売島を伝える取り組みを学生の目線から行ってほしい。1年目に作成したレンタルスペース「てん」として情報を発信していく事ができたり、予約をすることができるサイトもあるため、今年サイト含めぜひ活用して行ってほしい。 <http://teuriten.wp.xdomain.jp/>
- 地域活性化について
自分にとっての地域活性化とは『地域の「生活」と「観光」が最適な状態を模索し続け、その最適な状態の地域を第三者に伝えていくこと』という結論になった。
その関係性を図としてまとめたものを以下に添付する。

地域活性化のための3つの要因

1. 観光資源の魅力度、満足度の向上
→第三者が繰り返し地域を訪れたいくなるような施策
2. その地域のあるべき姿に近づけていくこと
→その地域の生活者が、どのような町づくりを求めているのかを把握、そのための施策を打つ
3. 地域を伝える手段(間接的)
→どんなにいい地域があったとしても、それを伝えていかなければ一向に変化は起きない
→過大評価したものを伝えるのではなく、地域を訪れてどうなってほしいのかという想いを伝える



それぞれの最適な状態の場を相互に求め続ける

→3つの要因のバランスを保ちながら、それぞれが常に最適な状態になることが地域活性化につながる

- おわりに
フィールドワークでは、正解のない中で自分たちで何をしていくべきなのかを沢山話し合う必要があった。時には意見が別れたり、自分の考えがわからなくなってしまうことも。ただ、活動を通して相手の意見を尊重し、自分の意見を伝えていき、どんな形であれ一つの形として残していくことは他の授業ではなかなか経験できないことだと感じる。活動を終えた今でも、今回の活動内容が正解だったのかはわからないが、それまでの過程から得た考え方や実行力などは非常に大きいといえるのではないかな。

忘れ去られた歴史を後世に伝える

4年 桑折大哉

<構想したプロジェクト>

私は天売島の1番の課題は、若年層の人口が毎年減り続けていることだと考えた。もっと若者が島にいて楽しい、親近感や誇りを持てるようにするために何が出来るかを考えた所、自然をそのままの状態にしてお金をあまりかけずに島を賑やかにしたいと思い立った。そこで、「ドラム缶風呂」の設置と「夕日の遊歩道」の整備を立案した。しかし、どちらも完成にもって行くことはできなかった。ドラム缶風呂の方は、衛生面と維持管理費用の問題解決を模索し続けた。無料で開放すれば衛生面はうるさく言われないが、維持管理費用を地元の方に負担し続けてもらうことになるし、有料で開放すれば衛生面で保健所の厳しい審査を受けなければならなくなるという状況で解決に持って行くことができなかった。

夕日の遊歩道計画は、灯台コースと呼ばれる林道とその終点の行き止まりに位置する灯台周辺の藪を刈って、灯台の横から美しい海と利尻富士を眺めることができる展望台を設けることで、新しい観光スポットにするという内容だった。こちらは土地の所有権の問題で賛同してもらうことができなかった。島を訪れていた観光客の方々からは、「地図を見て灯台からいい景色が見れると思った」「地図上ではまだ先に道は描かれてるんだけどなあ、」という意見をもらっていただけに残念だった。

<現地で行った取り組み>

独自で行うプロジェクトと並行して仲間の手伝いも兼ねて島内を動き回った。歩いて島を一周したり、島を一周する観光船「栄丸」に乗船して”島内の隠れスポット探し”をしたり、運営するお店の「てん」の大掃除や、お客さんとの雑談もした。

また、「てん」を訪れてくれた観光客のみなさんにアンケート調査をさせて頂いたり、まちおこしを中心に行っている坂本さんから釣りをレクチャーしてもらい、人生で初めての釣り体験をして天売の自然を実感した。

観光船の乗船や釣り体験からは、このように自然を体感しないと天売島を全て知ったことにはならないと感じたし、お客さんとの雑談とアンケート調査からは、アンケートも有効だが雑談に多くの本音がぼろっとでてくるのでより効果が高いと学んだ。自らのプロジェクトとして、羽幌町役場天売支所で羽幌町史を見せてもらったり、宿泊したゲストハウスにあった島の歴史が書かれた本を読んで、島内の人からも忘れ去られていた様々な歴史を発掘した。

<かたちにできたこと>

1つ目が地元民からも忘れられていた、かつて天売島に存在したアイヌ語の地名を発掘したこと、2つ目は愛鳥展望台にある海難慰霊碑の由来を調べたことだ。アイヌ語の地名は本当に忘れ去られていることがわかった。ある地元の高齢の方からお話を聞いた際に、昔の地名、各地区の状況の変化等を詳しく教えて頂いたが、アイヌ語の地名について尋ねたところ「ないと思う」との回答をもらったが、羽幌町史を調べたらたくさんのアイヌ語地名があったことが

判明した。これは何らかの形で後世に残さないといけないと直感した。そこで一覧表にして森下くんが作成したサイト「てうり手帖」に公開してもらった。また、観光客の方から何回か「気になる」という声をもらった、愛鳥展望台にある海難慰霊碑についても、謎の由来を調べたところ明治時代に200人を越える犠牲者が出た海難事故が2回もあったことを知り、こちらと同じく「てうり手帖」で作成してもらった。

<おわりに>

本当はアイヌ語や慰霊碑の由来を記した案内板を設置したり、本来予定していた夕日が見える遊歩道の計画等も実現しなかったが、今回の活動が来年以降の活動で何かしらのヒントになればよいと願っている。



『羽幌町史』天売島アイヌ語地名地図



愛鳥展望台にある海難慰霊碑



愛鳥展望台の位置

島民との交流と「てん」を活用した交流スペース

2年 原田悠里

私は今年度から地域協働フィールドワークを履修し、天売島について初めて調べた。天売島は羽幌町に属しており、歩いても3時間程度で1週できるとことや、海鳥の楽園であることといった基本情報を知った。また、森林がなくなってしまう再生した過去があることや、島内には幼稚園から高校まであるといったことも分かった。天売高校は全国からの生徒の募集に取り組み、日中は島内で働いたり、水産学習や郷土学習を行ったりなど特徴的な学校である。このように島について知る中で、島での生活をより知りたいと感じるようになった。

6月の事前訪問では、島を楽しみ良さを知るだけでなく、島民に直接話を聞き、島で長期間暮らしている人が感じていることも知ることを目標とした。それらの経験をもとに、私が天売島でしたいことを考えていくためである。

事前訪問では天売高校の生徒に時間をいただき、島での生活を教えてもらった。また、島民の方々の女子会にお邪魔して、話を聞くことができた。島で生活している若者は、島での生活と長期休みでの島外での生活を分けて考えており、島内の娯楽の少なさにあまり不満がないことが分かった。ネット通販で必要なものは買えるのも生活に不便がない一因である。また島内は坂が多いため、年齢が上がってくると島内でイベントがあっても行くのが難しい時があるという事も知れた。事前訪問やその後の話合いを通して、夏休みの訪問では、フェリーターミナルの奥にある「てん」で交流スペースを開くことにした。目的は、大きく3つである。①港の近くにいる人が外で景色や船の行き来を見ながらくつろげる場所、②島の良さを共有する場所、③学生の活動を発信する場所。この3つを軸に交流スペースの内容を決めた。

①くつろげる場所については、「てん」の中や外にベンチや机を置き、座ることができるようにした。船を待つ人が最後にくつろぐ場所になったと感じる。

②島の良さを共有する場所については、天売島の地図を印刷し、お気に入りの場所等を書き込めるようにした。また写真も共有してもらい、スライドショーにして共有できるようにした。晴れの日はもちろん、雨の日も人が集まってくれて、旅の思い出話を共有できる場になったと感じる。



島の良さを共有

・学生と話をする場を作れた

↑
お気に入りの写真や場所を共有 →



・新たなコミュニティができた

③学生の活動発信については、「てん」のなかに情報カードをはり、見ただけでどんな取り組みをしているのかわかるようにした。特にベンチの作成についてリアルタイムで更新していくことで、今天売島に来ている学生が何をしているのかといった情報発信ができたと感じる。話のきっかけにもなった。

学生の活動を発信



今までの活動や今回の活動を伝えることができた

今回の活動の反省点としては、必要な人数の想定が甘かったこと、学生と観光客とのつながりの方が強かったことが挙げられる。

「てん」をひらくなかで、帰りの船を待っている多くの人々が外に集まり、港に活気が感じられたり、島民ものぞきにきてくれて、知っている島のことを教えてくれたりしたので、交流スペースとしての役割はできていたとも感じる。人が見える化して活気を感じることも地域活性化の一つではないかと感じた。

今回の取り組みは、交流スペースを行うと決めたのが本訪問まで2か月ほどで、売店を開くなど、行いたくても人手と時間の関係でできないことがおおかった。今後はよりクオリティを上げ多くの人を巻き込めるような活動を行っていききたい。今回の活動で、島の出入り口に活気が出ることで、島民も観光客も天売島に感じる印象は変わると感じたため、来年度「てん」を活用していきたいと考えている。

おわりに

今回我々は、4年生3人、2年生1人の計4人での少人数での活動となりましたが、ほとんどのメンバーがしっかりとプロジェクトを成し遂げることができとても充実していたと思います。昨年の活動では、コロナの影響や天候の影響が相まって一度も島を訪れることができなかった分、今年は未だコロナ禍とはなりますが、事前訪問、本訪問とも通常のスケジュールで訪れることができたので非常に良かったと思っております。今回、4年生の森下君以外の全員が島に一度も訪れたことのないメンバーで、不安な点が様々ありました。しかし、訪問経験のある森下君を中心に、この活動にご協力頂いている「天売島おらが島活性化会議」の坂本さんや、「羽幌町観光協会」の平野さん、また、NPO法人北海道エンブリッジの浜中さんとのヒアリングやミーティングを複数回にわたって行い、事前訪問にて自ら島を直接体感して島を知ることや、プロジェクトの下調べを各々しっかりと行った結果、素晴らしい本訪問を迎えることができました。しかし、反省しなければいけない点もあり、今回各々でやりたい企画を考えて取り組むという形態をメインとして活動しましたが、そうすると個人個人で独立してしまい、企画という点で見たときにこの活動の名前でもある「協働」という点が薄れてしまったことです。2年生の原田さんの企画には、我々4年生も協力して取り組みましたが、それ以外は、ほとんど個人となってしまったので、来年度の活動ではその点もバランスよく取り組んでほしいというのが私の願いです。また、今回4分の3が4年生ということで、なかには就職活動で多忙の中での活動となってしまった者もあり、色々都合が合わない状況もありましたが、2022年度地域協働フィールドワークを無事終えることができたのは、それぞれが「協力」し合えたからこそだと思います。先ほど、反省点にて各々で独立してしまったと言いましたが、それは“企画全体”として見たときであり、それ以外ではお互いにアドバイスを言い合い、それぞれ企画のブラッシュアップを重ねることができたので、今年度の活動は充実した最高のものとなりました。

最後に、本活動は学生主体での活動がメインなので学べるものが多く貴重な経験がたくさんできると思います。したがって、少しでも興味のある学生がおりましたら積極的に参加して頂けたらと思います。そして、ご協力いただいている島民の皆様や関係者の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、参加する学生たちのこの活動に対する思いは、真っすぐでしっかりとしたものだと思いますので、今後ともお力添えを頂ければ幸いです。

2022年度 北海学園大学地域協働フィールドワーク
経済学部地域経済学科4年
岩崎竜平